

令和3年度 大阪府立高槻支援学校 第3回 学校運営協議会記録

令和4（2022）年2月3日（金） 10：00～12：00

場所：本校図書室

構成：＜委員＞伊丹 昌一（会長）、福井 勇、矢野 雅哉
＜学校＞彌永校長
＜事務局＞加藤教頭、田中裕首席、東郷首席、寛進路指導主事

傍聴者 なし

- 1 校内見学（中止）
- 2 校長あいさつ
- 3 事務局からの報告事項
 - ①保護者からの意見書について
 - ②高等部3年生の進路指導状況について
 - ③学校自己診断の結果について
- 4 学校経営計画について
 - ①令和3年度計画について
 - ②令和4年度計画について
 - ③承認について
- 5 次年度への提言について
- 6 その他
- 7 校長あいさつ

*上記のとおり、報告等を行い、各委員より次のような意見等及び承認をいただいた。
（（ ）内は、質問等への学校からの回答）

○保護者からの意見書について
（提出なし）

○高等部3年生の進路指導状況について
・進路指導状況とともに、卒業生の定着状況の報告があったが、高い定着率とのことで素晴らしいと思った。

○学校自己診断の結果について
・教職員の提出率が、例年非常に高く、教職員の学校運営への参画意識の高さが評価できる。また、保護者が学校運営等についておおむね肯定的に評価しているのは、日ごろの教職員の取組姿勢の成果と考えられる。
・個別の指導計画の充実に関して、保護者が高評価していることは、本校の取組として特筆できる。

○学校経営計画について
①令和3年度の学校経営計画に関する達成状況について

- ・コロナ禍により、予定どおり実施できなかった計画・内容が若干あるものの、自己評価では、おおむね目標を達成している。このことから本校の教職員が非常にながらんでいることがわかった。
- ・職業コースに関して、チームで検討をかさね、学習内容等を生徒の現状に応じて改善充実しようとしていることがわかった。多様化する生徒の進路希望へ対応できるよう、今後も教育内容の見直しの取組をつづけていただきたい。
- ・性に関する指導について、プライベートゾーンに関する内容や性被害に遭わない等、どのようにして自分を守るかという内容を指導していることがわかった。今後も全般に通じた指導と個別の実態に応じた指導との二本柱で取組をすすめていただきたい。

②令和4年度の学校経営計画の内容について

- ・ICTの活用に関しては各家庭における環境整備が重要な課題と考えるが、どのような対応をしているのか、教えていただきたい。
(各家庭のICT環境についてのアンケートを実施した。ICT環境に課題のある家庭にはルーター等の貸し出しを行うことを検討している。)
- ・今後、障がいのある子どもたちへの教育に関しては、「個別最適化」がキーワードとなる。保護者の願いを踏まえた自立活動の指導や学習指導等において、ICTの活用を取り入れ、「個別最適化」をすすめる取組を推進していただきたい。
- ・新年度の学校経営計画の取組内容に関して、いずれの取組も、本校の児童生徒の「自己効力感」「自己有用感」「自己肯定感」をそれぞれ刺激し、総体としての「自尊感情」を高めていく内容であるとする。推進に当たっては、「ともに学ぶ」ことを基本方針として、コラボレーションや「協働」をキーワードに取り組んでいただきたい。

※以上の審議等を経て、学校経営計画が承認された。

○次年度への提言について

- ・放課後等デイサービスの送迎車の駐車問題に関して、今年度、校内環境を整備していただいた。地域住民として、本校の取組を評価している。今後も継続して環境整備に取り組んでいただきたい。
- ・校内見学ができた時に、授業等の中で児童生徒への配慮がきめ細やかであると感じた。現在、コロナ禍で業務が多忙化していると推察されるが、業務のスリム化を図り、今後も子どもたちと向き合える時間の確保に努めていただきたい。
- ・今後も、本校が大切にしてきた地域とのつながりを大事にしていきたい。
- ・これからの支援学校では、障がいのある子どもへ自己選択・自己決定できる力をさらに養っていくことが求められる。そのためには、毎日の指導のなかで自己認知力をたかめる取組をととして、自己実現へつなげていただきたい。
- ・本校の教員は、愛着に課題のある子どもにも向き合う指導をしていることは評価に値する。しかし、教員が一人で抱え込こんでしまう可能性が懸念される。経営計画にも示されている福祉との連携を活用しながら「チーム高槻」で取組をすすめていただきたい。